

ボランティア通信

～小学校AT～

目次

白幡小学校

「一人ひとりに目を向けて」

外国語学部 4年
田端真侑

「個々に合ったサポートを行う大切さ」

外国語学部 4年
山本賢治

「務める」のために「努める」

外国語学部 3年
阿部良美

大口台小学校

「名前を覚えること」

人間科学部 3年
菅谷葉菜

二谷小学校

「3年生になって」

法学部 3年
横山裕也

神橋小学校

「凡事徹底」

人間科学部 3年
内田朱音

南神大寺小学校

「一緒にいる、一緒に行く」

人間科学部 3年
橋本菜

「一人ひとりに目を向けて」

外国語学部 4年 田端真侑

白幡小学校でアシスタントティーチャーを始めて早いものでもう1年と半年が経ちました。去年お世話になった特別支援学級では一人ひとりにしっかり寄り添い支援をする形でしたが、今年度は1年生の学級で活動することになり一気に大勢の児童のことを見ながら指示をしなければならない機会が増え、最初は戸惑うことが多くありました。

支援で入っている1年生の学級には授業に集中できず、すぐに廊下へ飛び出してしまう男児がいます。教室を飛び出すだけでなく、周りの児童への暴言、さらに気に入らないことがあれば相手を叩いたり蹴ったりすることもありました。そのようなことが毎時間のようにあるので、私はボランティアに行くたびにその男児のことを叱ってしまいます。

ある日、同じ学級の女兒が私のところへやってきて「田端先生ってよく『あかん』って言って叱っているけれど、『あかん』ってどういう意味か教えてください。」と言いました。1年生ということで、関西の方言を話す私の言葉に疑問を持ってくれたようですが、私はその時、女兒の言葉を聞いて何かある度に「あかん」と言って児童を叱ってばかりいることに気がつきました。とにかく児童のやっている危ない行動を止めないといけないと思いつぎに、つい「～するな」の形で叱ってしまっていたのです。そのため女兒の言葉を聞いてからは「廊下で走ったらあかん」ではなく「廊下は歩こうね」といった言葉の言い換え、否定形を使わず注意することを意識するようになりました。

「子どもにとって最大の教育環境は教師である。」という言葉聞いたことがあります。子どもにとって一番身近にいる大人は親であり、その次が小学校の教師だといえます。私はこの女兒からの発言を聞いて、子ども達はいつでも私たち大人がやっていることや話していることをしっかりと見たり聞いたりしていることを感じました。だからこそ、小学校の教師は児童の成長や考え方に大きな影響を与え、良い方向にも悪い方向にも知らず知らずのうちに引っ張ってしまうことがあると感じます。

週に1回のボランティアですが、白幡小学校でお世話になる中で少しずつ自分の目指す教師像ができてきました。それは白幡小学校の先生方のように、「児童のことを第一に考えしっかりと成長を見守りながら一人ひとりの心に寄り添うような接し方ができる教師」です。また同時に、お一人お一人の先生方が教師キャリアを積み重ねてこられた中で培ってこられた技や教育哲学のようなものをもっておられることを日々感じています。それは学校に勤めたら得られる物ではなく、自らが目的をもち、日々研鑽を積み重ねなければ得られないものだと考えます。私にはまだそういった実践はありませんが、残りの大学生活を今以上に充実させ、学ぶことの楽しさ、おもしろさ、苦しさを多く体得しようと思っています。

個々に合ったサポートを行う大切さ

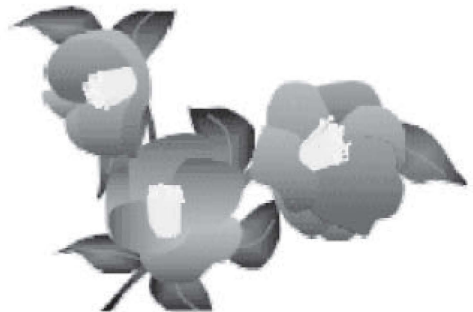
外国語学部 4年 山本賢治

早いもので、白幡小学校でボランティアを始め半年が経ちました。3年生までは土曜日の午前中に子どもたちの勉強をサポートする土曜塾に参加させていただき、4年生になった今は、毎週火曜日のお昼休み終わりまで、ATとして主に1年生の子どもたちをサポートさせていただいています。前期は教室全体を動き回り、児童のわからないところをサポートしていくことが多かったのですが、後期に入ってから、他の子に比べやや劣る部分がある児童(T君、A君)のサポートを中心に行うことが多くなりました。

T君は人の話を聞いたり、読み書きしたりするのが他の児童に比べ苦手な子です。最初は主に口頭でアドバイスをすることが多かったのですが、なかなか私が言おうとしていることを理解してくれませんでした。しかし、口頭でアドバイスをしているのがいけないのではないかということに気づき、視覚で理解できるようにモデルを見せるようにしました。例えば、あるカタカナの書き方が分からないときは、まず私が実際に書いてモデルを見せて、その後一緒に書いてみるということをしました。そうすると、T君は私のアドバイスをしっかり受け取り、そのカタカナをきれいに書けるようになりました。最初は「T君は他の子に比べできない子」という見方をしてしまっていたのですが、決してそうではなく、「何がいけないのか」ということを考え、児童一人一人にあったサポートを行うことが大切であると感じました。

A君は授業中にすぐ立ち歩いてしまったり、教室を出てしまったりすることが多々あり、他の児童に比べ集中力が続かない子です。教室を出てしまったときは、いくら「教室に戻って」と注意しても聞いてくれないことが多いので、無理やり教室に連れ戻したこともありました。しかし当然、A君は嫌がり、反抗的な態度を取ってくることがほとんどでした。やはり、無理やり連れ戻すのは良くないと思い、クラス担任の先生や、同じ小学校でボランティアしている仲間たちと相談しました。そして、A君の話をしっかり聞くこと、A君の要求をある程度は受け入れるという姿勢も大事なのではないかという結論に至りました。A君が「お外で遊びたい」と言ってきたら「じゃあ一緒に遊ぼう。遊んだら教室に戻ろうね」といったようにA君の要求を受け入れて、教室に戻るという約束をしたところ、ちゃんと教室に戻るようになりました。最初は、「授業中に教室の外に出たらすぐに連れ戻さない」という概念にとらわれてしまっていたのですが、今は柔軟に対応することが大切だということを実感しています。

私は小学校ではなく中学校の先生を目指していますが、中学入学前の小学生の姿を知って今後に生かしたいという思いを持って、白幡小学校でボランティアを始めました。楽しいことも沢山あり、悩んだことも沢山ありましたが、小学校の実態や子どもたちの様子、子どもたちとの接し方など、沢山のことをこのボランティアを通して学ぶことができました。来年度から教壇に立つことになると思いますが、このボランティアで学んだことをしっかり活かしていきたいと思っています。



「務める」のために「努める」

外国語学部 3年 阿部良美

白幡小学校でATとして活動を始めてから、1年と半年が経ちました。今年の後期からは、新たに4年生のクラスで活動させていただいています。11月末にある、4年生の宿泊体験学習に引率するためです。学年全体の子の顔、名前や特徴を早く覚えることができるようにと、一日のうちに時間割に応じて3クラス全てに入らせていただいています。すぐに顔や名前を覚えることはなかなか難しく、思う通りにはいきませんが、一人でも多くの子のことを覚えたいと思い、特に最近ではたくさんの子と話すように心がけています。目標を決めて活動することでどのようなことに気を付けたらよいのか意識できるため、とても充実した活動となっています。

私の中でだんだんと子どもたちの顔と名前が一致し始め、学校では宿泊体験に向けての準備が本格的になってきた11月中旬頃、私は体調を崩し、宿泊体験学習の引率をやむを得ず辞退することになってしまいました。今まで3ヶ月間ともに過ごしてきた子どもたちと一緒に体験学習に行き、学びたいと思っていたし、準備の段階でも携わらせていただいていた体験学習は初めてだったので、迷惑をかけてしまったことにととても申し訳ない気持ちになりました。私にとって、このことはボランティアをはじめとした自分自身の何かに取り組む姿勢について考え直すきっかけとなりました。きっかけとなった理由には、小学校の先生方から言っていた言葉でとても印象的であった言葉があるからです。「休むことも仕事」という言葉です。それまでは、一日の中でこれから活かしていきたいと感じることや新たな学びが多く、休んだりやめたりするより、自分のできることは最大限取り組んでいきたい、と感じていました。しかし、結局自分の体調がすぐれない時に取り組んでも、一生懸命に力を出すことができなくなってしまったり、本当にやるべきことややりたかったことに取り組むことができなくなってしまったりすることもある、ということを学びました。取り組むべきことに「務める」ことができる環境にするためには、自分を「努める」ことができる状態にする必要があるということに気付きました。当たり前のことなのかもしれませんが、私は今までこのことに気付くことができませんでした。

これからの活動では、自分の力が最大限発揮できるような環境づくりや体調管理をするよう努めていき、一つでも多くのことを学ぶことができるように務めていきたいです。そして、将来教師として教壇に立つときに一つでも多く、学んだことを活かしていけるようにしたいです。

『名前を覚えること』

人間科学部 3年 菅谷葉菜

今年度からATとして、大口台小学校でお世話になっています。10月からは月曜日に行かせていただいているのですが、台風の影響や祝日、振替休日等で、後期はまだ4回しか行っていません。しかし、前期の積み重ねもあって視野も広がり、吸収できることも多くなってきました。

最近ボランティアに行った日の朝、月に一度の集会が体育館で行われていました。この日は、「たてわり班」と呼ばれる1～6年生混合のチームごとに分かれ、児童の代表が中心となってゲームをしていました。日々の生活では同じ学年の「クラス」単位での行動が主ですが、この集会のような普段の生活であり関わりのない違う学年の子どもたちとの交流に、児童たちのテンションは上がり、寒い早朝にも関わらず元気良く楽しそうにゲームをしていました。その姿は、私の眠気を吹っ飛ばしてくれました。今回だけでなく、毎回のボランティアで思うのは、朝早く小学校に向かうことが億劫になることがあっても、子どもたちの姿を見ると元気付けられ、最後には今日も来てよかったなと感じます。子どもたちは、無限の元気さ、明るさのパワーを持っているのです。

4月後半から始めたこれまでのボランティアを通して、感じたこと、考えさせられたことはたくさんあります。その中でも強く感じたことは、“「先生」と「児童」”という前に、“「人」と「人」”だということです。何か指導する場合、全く関わりのない人から言われる言葉と、思い入れのある人から言われる言葉、たとえ同じ言葉だとしても響き方が違うと思います。特に小学生は正直なので、廊下で歩いている初めて会った児童に「おはよう」と言っても、誰だろう？という顔をして、無言で通り過ぎてしまうということもありました。では、どのようにして児童がいます。このように、“「人」と「人」”との関係性を作っていくことが、その後の指導にも繋がっていくのだと思います。

この学校ボランティアは、大学生という立場でありながら、生の教育現場を見させていただく大変貴重な機会です。そして、私たち学生が「あの時こうすれば良かった」と後で反省し改善したとしても、それに関わった児童にとってその一瞬一瞬はその時しかないということを常に頭に入れ、“責任”を持ってこれからも活動していきたいと思っています。

3年生になって

法学部 3年 横山裕也

二谷小学校でアシスタント・ティーチャーを始めて、丸2年が経ちました。また、玉川大学通信教育の小学校特別プログラムの履修も始まり、具体的に小学校教員になるための指導も受けています。その指導を受けてから、授業の展開や児童の様子についてより注意深く見るようになり、今までよりも毎週の学校ボランティアの参加姿勢が大きく変わりました。

大学で初めて行った国語の模擬授業は、指導していただいている先生からたくさんダメ出しをいただきました。その後、学校ボランティアの活動で、現役の教員の方々の授業で、自分に足らなかった興味を引き付ける工夫、小学生でも理解できる表現を見て学ぶことができました。また、様々な手作りの教材のお手伝いもさせていただきました。それぞれ、様々な工夫が見られましたが、すべて共通して感じたことは、「勉強を楽しく行う」ための要素が詰まっていたということです。私が行った模擬授業は、知識を教えることにあまりにも重点を置きすぎていました。つまり、「勉強を楽しく行う」という大切な点が欠けていたと理解することができました。その後の模擬授業では、この点を忘れずに取り入れるように行う工夫した教材を、児童の反応や様子を予想しながら作成することを心がけるようになりました。

また、先生の児童との接し方についても様々な状況からみるようにもなりました。発問やその答えに対して膨らますようなコメントも授業を行う上でももちろん大切ですが、授業外の普段の学校生活での児童との接し方についても、学級づくりや教員と児童の信頼関係の構築という観点からみて重要だと感じたからです。授業中は、児童の小さな疑問の声を拾ったり、児童の意見をさらに膨らませる言動を取ったり、より良い学習の展開を心がけた声かけが行われていました。授業外では、給食の時間が児童と接する大きな時間だと感じました。「ご飯を食べる時間」は、授業中にはみることのできない児童の表情や、言葉を聞くことができます。つまり、その時間は、児童と教員の触れ合いの場として非常に適しており、現在の児童の実態を把握したり、タイムリーな話などを行ったりすることによって、両者の信頼関係を大きく築くことができます。現在は大学の履修の関係で、給食の時間まで学級にいることはできませんが、私自身もともに食事をするときは、違った表情の児童たちと楽しく話をするとともに、聞いてみたかったことや、自分自身のことを積極的に話すことを心がけるように努め、お互いの信頼関係の構築を意識しています。

このように、3年生になってからの学校ボランティアの経験は、自分が教員になる上で足りないものを教えてくれる場であることがさらに実感でき、充実した活動を行えています。今後の活動でも、様々な経験を通して学んでいきたいと思いました。



凡事徹底

人間科学部 3年 内田朱音

昨年度の2月から神橋小学校で学校ボランティアを始めて、1年近くの時間が過ぎました。前期は、「少しずつでも自分が成長できるように、目で見、触れて、感じて、多くのことを吸収していく」という目標を持って活動しました。児童や先生の動きを目で見たり、教室や校庭で触れ合ったり、児童の成長に感動したり、多くのことを吸収できたと思います。後期は、毎週月曜日に活動させていただいています。現在は、ATにも慣れてきて、だんだんと児童の顔や名前を覚えられるようになり、不安もなくなりしました。周りを見て行動することや、児童と十分なコミュニケーションを図ることなどもできてきました。週1回という少ない時間ですが、ボランティアでたくさんの児童たちと触れ合えることがすごく楽しみになっています。更に、多くの児童と交流を持てるように、積極的に話しかけたり、中休みに一緒に遊んだりする等していきたいです。

先月、4年生の宿泊学習の引率で愛川少年自然の家に行ってきました。私は、Aさんの補助として参加しました。Aさんとは、ATとしてサポートに入ったときに会ったことがあり、名前も覚えてくれていました。Aさんは、大きな音やうるさい音が苦手ですが、周りに合わせて行動することはできます。宿泊学習では、Aさんの補助をしながら、グループと一緒に行動したり、クラス全体で行動したりしました。一人の児童を見ながら、周りの児童を見るということは初めてで大変でした。特に、Aさんが考えていることを感じ取るのは難しく、苦戦しました。表情や動きを見たりするなど、方法は様々ありますが、思っていたことと実際に体験したことは全く違いました。

日頃から児童を指導している先生達と私の指導力の差は歴然で、一人一人の児童を理解することの大切さを実感しました。先生達は児童のことを考え、責任のある行動をしています。常に児童を見守り、健康状態や児童の行動を把握していなければなりません。寝る前の職員打ち合わせでも、児童についての情報を共有し、児童のことを一番に考えている先生方を見て、心から尊敬しました。少しでも先生方に近づくために、来年は大きく成長し、様々な学年の宿泊学習に取り組んでいきたいです。

後期の目標は、「短い時間の中でも児童にとって、自分にとって、濃い時間を過ごす。」です。この目標を達成するためには、基本的なことが大切であると気づきました。例えば、名前を覚えることだったり、中休みに児童とたくさん遊んだりするなど様々です。私は、名前を覚えるのが苦手ですがすぐに覚えられません。知っている児童と会った時に、顔は覚えていても、名前を思い出せないことが多く、児童に嫌な印象を与えてしまっているのではないかと

と不安に感じます。ですから、そのような不安が生まれないためにも、当たり前のことを徹底してやりたいです。また、先生方との情報の共有をもっと積極的にしていきたいと思っています。

ただ単に、活動するのではなく、授業の意図や展開等を知りながらATとして活動の方がより自分のためになると思います。限られた学年やクラスだけではなく、これからも多くの児童と関わり、濃い時間を過ごしていきたいです。



一緒にいる、一緒に行く

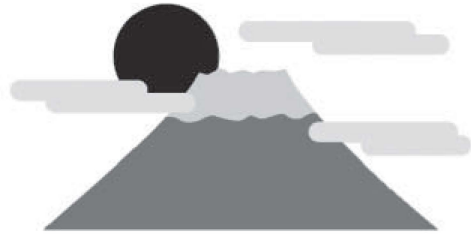
人間科学部 3年 橋本 栞

私は今年度、個別支援級でお世話になっています。4月は私も子どもたちもお互い初めてだったので、子どもは私に対して恐る恐るあいさつをしたり、少し控えめに声をかけたりしていました。週1回、クラスに行き過ごすうちに元気にあいさつをしてくれたり、たくさん話しかけてくれたりするようになりました。みんなの行動や表情もとてもいきいきとしています。これはクラスの友だち同士、担任の先生が常に一緒にいることで信頼や安心感が生まれてきたのだと思います。私がこのことを実感した、嬉しい出来事もありました。

10月の授業で、個別支援級の6年生が市の体育大会のダンスを練習する、ということで、私も分からないながらも一緒に踊りました。次の週からその6年生の子は、「はしもと先生、今日は5時間目もいる？」と私に尋ね、いることを伝えると、両手を挙げて「やったー！」と喜んでくれるようになりました。私が南神大寺小学校にお世話になるときに決めたことのひとつが、私の喜びに変わった瞬間でもありました。

私が決めたことのひとつとは、一緒にやる、ということです。授業ではわからないことにアドバイスをしたりしますが、体を動かす授業や休み時間は積極的に一緒にを行い、一緒に楽しみます。

自分が教師になったとき、最初は子どもと馴染めないことがあったとしても、同じ教室で学び、相手を理解して楽しむときは一緒に楽しめば、クラスが良い雰囲気になるのではないかと思います。ボランティアとして学ばせていただいている2年間、特にこの1年は強くこのことを感じるようになりました。



発行日：2015年 2月14日

発行所：神大ユース・サポート・プロジェクト(JYSP)

TEL：045-481-5661 (内線4352)

FAX：045-413-4154

E-mail：jysp-jimukyoku@kanagawa-u.ac.jp

URL：http://www.kanagawa-u.ac.jp/teacher_training_course/jysp